

三重大学人文学部における「質の保証に向けた学びの支援」等について

三重県立津高等学校長 榎本和能

高校現場から評価委員として指名を受けたという点を考慮し、今回の人文学部からの説明や配付資料だけでなく、本校の教員や卒業生から聞き及んだ話を総合して思うことを述べさせていただきます。

三重大学人文学部における学生支援で評価できる点で、まず第一にあげられるのは、就職に対する支援です。現在、学生は厳しい就職状況の中におります。そのような雇用環境の中で、就職率等で高い実績を上げてみえます。学生は就職支援体制やその指導に信頼感を持ち、学問の追究を始め、大学から提供される教育に落ち着いて向かうことにつながっているのではないかと思います。次に、1年生前期のスタートアップセミナー等の初年次教育から3年生の演習(ゼミ)、そして卒論へと学びへの目的や目標を持った学生への指導システムが整っていることです。また、国際的視野の育成という点では、大学や人文学部が海外の多くの大学と協定を結んでおり、交換留学制度による留学生との交流等の環境整備が進んでいることです。その他にも評価する多くの取組や指導体制等がありますが、特に前述した3点が強く印象に残りました。

次に気になる点をあげさせていただきます。本校においても生徒は素直ですが受身の傾向が年々強くなっています。生徒に主体性をつけたいと思い、そのようなことを意識した指導をしているのですが、なかなかできていない状況です。どの高校も同じような状況だと思います。今後の人文学部の入学生は、真面目だが受け身の傾向が強くなり、今まで以上に目的や目標を見いだせずにいる学生が多くなるのではないかと思います。そのため、初年次教育やそれに続く教育をより体系化して、学生にとって効果的なものにしていくことが必要であり、今後、体験や経験を含め学生の主体的な活動を取り入れた初年次教育からのシステムづくりが大切だと考えます。

2011年度三重大学人文学部におけるFD活動報告書における学生のアンケート結果では、授業満足度や授業理解度、授業による知識等の獲得度等の高さに比べ、授業外学習が少なく、「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」「生きる力」が成長したと思う点では評価が低い結果となっています。このことは、学生が授業に対して受け身であり、主体的に関わっていないことに課題があるような気がします。少人数講座やゼミは、先生方と学生の意見交換等を含め、学生の主体的な学習が中心であると思いますが、1・2年生の共通教育を中心に教員による一方的な授業が多いのも原因ではないかと思います。共通教育となると人文学部だけの問題ではありませんが、このようなアンケー

ト結果を改善につなげるためにどのような手法をとっていくのかという点を明確にしていくことが大切であり、適切な数値目標を立ててP D C Aサイクルで改善していくことが必要ではないかと思えます。

交換留学制度の環境が整っているという状況の中で、外国からの留学生に比べ人文学部からの留学生が少ないように思います。東京から離れた地域だからこそ、国際的視野を持つ学生をより意識して育てていく必要があります。これもまた、主に共通教育の問題だとは思いますが、グローバル人材の育成という視点で、その第一歩としての外国語教育の充実に一層努めていくことが大切だと考えます。

高校と大学の間には大学入試という壁はありますが、三重県や日本、国際的に活躍する人材をどう育てるかという視点や、試験で測れる以外の力をどう育てるのかという点で、三重大学と高校との連携が必要なことを感じました。

三重大学人文学部が組織的にF D活動を推進し、毎年テーマに沿って外部評価を受け、改善活動を推進していることやその手法等、高校現場を預かる私にとって非常に参考になる点が多くありました。有難うございました。